

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100329		
法人名	社会福祉法人 明照福祉会		
事業所名	グループホーム明照		
所在地	宮崎市佐土原町下田島4575番地1		
自己評価作成日	令和元年8月23日	評価結果市町村受理日	令和元年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和元年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所し10年が経過しました。グループホームの役割を運営推進会議を通して委員や地域の方、家族行事において情報発信しています。また利用者の心に寄り添える姿勢をもち支援を行っています。利用者支援については利用者の特性が活かせるよう個別支援に力を入れており、敷地内を散歩したり畑に向いて作物に触れる機会を多く持っています。また普段から隣接しているデイサービスや保育園と交流を図る事の出来る環境にあり利用者の刺激に繋がっています。月一回は家族合同行事を行い一緒に過ごす時間を設けています。入所者やご家族の思いを重要視し、グループホームで安心して生活できるよう、利用者の家族を指し共感し合える施設作りに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームと同じ敷地内に同じ法人のデイサービスと保育園があり、連携して地域との交流に努めている。懇親会やバーベキューなどを企画したり、毎月、利用者家族へ文書で報告するなど、家族との関係継続の支援に取り組んでいる。また、運営推進会議は参加者が多く、そこで意見をサービスに反映させるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月例の職員会議において職員間で意識の統一を図っている。各職員が実施目標を立て、認知症ケアについてや、仕事姿勢において振り返りを行い、反省点、今後の実践目標について検討している。更に個々の意識を高く持つ事が重要と考える。	ホーム独自の理念、介護理念を玄関に掲示している。毎月の職員会議で唱和しているが、職員が共有し実践しているとは言い難い。	理念を実践に結びつけるため、職員間で周知を徹底する一層の取組を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア団体から協力を得て、定期的に交流を図っている。また地域の行事(夏祭り)に参加し組織全体で関わりを持つようになっている。しかし、地域の方の訪問機会は少ない状況にある。	地域の祭りに利用者と共に参加し、小学校や中学校、同じ敷地内の保育園とも定期的に交流するよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に運営推進会議を通じ、当施設から認知症情報についてやグループホームの状況の発信、理解をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の事業計画に基づき2か月に一回開催し、施設の状況報告や課題等を報告、委員を主体の意見交換を行っている。委員は積極的に参加されており、より理解を深める取組となっている。	会議では、事業報告や決算報告が行われ、出席者からは、外部評価の目的についての質問や災害時の緊急システムの活用等についての助言があり、そこでの意見や助言をサービスの向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は実地指導があり施設運営や利用者関連の情報について意見を頂く機会があった。また運営推進会議に地域包括支援センターの参加を依頼し関係性の構築を行っている。佐土原町多職種連絡協議会へ参加し情報交換を行っている。	佐土原町他職種連絡協議会に参加して情報交換や交流を行ったり、宮崎市が主催する研修会や勉強会に出席するなどして協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、「意思決定支援」「虐待・拘束の具体的な防止策」をテーマに内部研修会を実施し職員間で理解を図っている。玄関の施錠等については行っていない。	身体拘束廃止委員会を設置し内部研修を行っている。マニュアル、指針を作成し、委員会を3か月ごとに開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本理念にもあるが、利用者に対して尊厳と敬意を持って丁寧な支援を行うように徹底している。内部研修でもテーマに沿って職員の理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、主任級の職員は外部研修等において高齢者福祉の制度や理解について学ぶ機会があったが、実践では活用する機会がなく職員の中には知識として不足しているところがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時や他契約を交わす際には契約書や重要事項説明書を本人や家族に分かりやすいように丁寧に説明している。また質問等がある時は声をかけやすい関係性も築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族に対し書面にて生活状況の報告を行っている。その中で家族との合同行事への参加の呼びかけを行い、ご家族の意見要望を聞く場にもなっている。年2回は家族会を開催し、設置運営やサービスの向上に繋げている。	年2回家族会を開催し、また、毎月書面にて家族に生活状況の報告を行っている。往診の希望や布パンツへの変更希望など、家族の意見が反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例の職員会議で状況の報告や課題解決に向けた研修等を行っている。積極的に意見交換が出来る場を作っている。また年に一回、事前に調書を踏まえた面談があり意見を交わせる機会を設けている。	理事長との面接が毎年行われている。全職員が毎月の職員会議に出席し、管理者は日常的に話を聞くよう心掛け、シフトの変更を行うなど職員の意見が反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力や勤務意欲を観察し状況の把握を行っている。就業時間内労働や効率化について検討が必要な場面もある。給与面では手当ての付与があり、福利厚生面においても安定した待遇と感ずる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修における復命や他施設見学、内部研修を通してスキルアップの場を設けている。特に月例の内部研修や職種別勉強会においては専門的に学ぶ機会を設けており参加意欲が見られる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報を共有する場への参加(佐土原多職種連絡協議会、施設ケアマネジャー研修会等)は毎年行っている。また法人内において職員同士の交流が持てる機会(互助会)を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談や入所日に利用者と家族の意向を十分に確認し、今後の利用に繋がるように努めている。ニーズや要望を明確化し個別支援に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたり、利用者と家族の意向に沿えるように個々に応じた支援を専門的な立場で提案している。利用者に必要なサービスの提供が出来るか毎月評価している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの役割や支援内容、状況を丁寧に説明し利用者に応じた生活の場の提供を行っている。利用者の可能性を活かし過介護にならないように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を家族として考え関わりを持っている。行事などを含め、普段の接し方から利用者と職員と一緒に楽しめるような関係性づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族合同行事を開催し家族との関わりを持つようになっている。また家族の訪問があった際はコミュニケーションを図りお互いの関係性づくりを行っている。各家族あてに毎月請求書と一緒に生活状況、写真を同封し利用者の状態把握をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人内の事業所を利用されている方が地域を中心とした利用者が多く、交流会を含めお互いが行き来しやすい環境にある。またボランティアで来訪される方も知人がいるので交流の場となっている。	墓参りや馴染みの店での外食、同法人の通所介護利用者との交流など関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に生活をする中で、お互いが安心して生活が出来るよう配席や活動時の環境に職員が介入している。孤立やトラブルに繋がらないよう、また関係性が保たれるように職員が早期に気付ける体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内での関わりがなくても、家族行事に対し声をかけて下さる家族もありこれまでの関係性を築けていると感じる。入院時は面会を行い関係性が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者の状況把握に努め、何気ない会話の中から本人の思いや要望を確認している。また本人や家族のニーズはプランに反映し職員会議内で方向性を検討し支援を行っている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)の一部を使用し家族からの意見も聞くようにしている。利用者の日常的な会話から希望や意見を把握し介護計画に反映させるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴をアセスメントし個々の状況に適した支援を行っている。生活スペースに馴染みのある物を設置し環境面にも配慮している。個別支援においてもその人らしさが発揮できるような取組を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリング時に個別支援を基にその人らしい生活が送れているか担当職員の報告を中心に職員会議内で検討を行っている。現状報告から今後のケアについて見直しを行い利用者本位の支援を目指している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一日の状態を支援経過記録を通して職員間で共有している。それを基に担当職員がモニタリングを行い職員会議で協議、必要に応じて計画の見直し変更を行っている。	モニタリングは担当職員が毎月行い、見直しは3か月ごとに行っている。毎月の職員会議で話し合い、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の支援経過記録はそれぞれに応じ細分化された書式になっており、細かな状況を記入出来るようになっている。しかし情報を得る為に見えてこない部分もあるので職員会議等で職員に記録のあり方について指導を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	普段の様子を記録に落とす事で、利用者のニーズの把握を行っている。利用者の特性を活かした支援が出来るよう職員会議を通し提案を行っている。行事等の職員体制も安全に配慮した人員配置が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に行っている運営推進会議において現状報告や意見交換を行うと共に、行事等にも参加協力をしてもらう事で理解に繋げて行っている。また地域のボランティア団体の来訪もあり交流を図る事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への通院介助、定期受診は施設が対応をしている。利用者の普段の状態との変化は施設職員の把握が出来ているのでそのような対応を取っている。緊急時には家族にも連絡を行い同行協力を依頼している。	本人、家族希望のかかりつけ医に受診できるよう支援し、適切な医療が受けられるよう各医療機関との関係構築に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルサインを含めた健康チェックを看護師が確認し、医療的な判断について、職員に対し助言を行っている。また各職員が利用者の変化に気づき、バイタルサイン測定が行えるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関へ同行し、利用者情報を提出、連携を図るようにしている。また退院前にはカンファレンス会議に出席し情報提供を確認した上で今後の支援についての見直しを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り委員会を設置し、月例の職員会議において研修会を行い支援の在り方について学ぶ機会となっている。環境面での整備が整っているとは言えず課題となっている。家族には看取りについての同意書を頂いている。	看取り委員会を設置し、毎月開催している。看取り指針を作成し、入居時に話し合い、同意書を取っている。また、都度家族と話し合い、看取りプランを作成し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通して定期的に学ぶ機会を設けている。急変時の対応や救急法は毎年行っているが自主的に参加する職員も多く意識の高さが見られている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災については年間行事を作成し、それに基づき毎月火災、地震、水害、不審者対応の訓練を行っている。24時間体制の施設であり日中夜間を想定した訓練を実施、また運営推進会議にて地域住民も交え通報訓練も行っている。	毎月、地域住民の協力を得て防災訓練を行っている。また、物品の備蓄など災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して常に敬意を持って接したり、言葉かけを行うようにしているが、家族として接する部分で言葉使いに慣れが出てくる事もある。法人内部会研修で、接遇に関しての研修会もあるので積極的に学ぶ機会を持ちたいと考える。	敬意を持って言葉掛けし、排せつや入浴にはプライバシーを損ねないよう配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定出来るよう分かりやすい説明を行い、不安が見られる際も安心出来るような声掛けを行う事で自信を持って決定して頂けるように接している。自己決定が困難な時には、家族の協力も頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援する側本位にならず、利用者が自己決定出来るよう分かりやすい説明やジェスチャーを行い伝えるように工夫している。出来るだけ利用者の希望に沿える様な体制を整えている(食事提供、起床就寝時間、入浴)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関しては基本的に利用者の意向を優先しているが、室温や環境面に適しているか職員が助言や調節を行う事もある。外出等の行事時にはおしゃれを楽しんでもらっている。生活リズムに沿った衣服の提供を行い一日のサイクルも感じてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回調理教室を開催や、利用者の誕生ケーキと一緒に作る機会があり食べる楽しみの他に作る意欲にも繋げている。普段の食事は本人の状態に合わせ、形状、量、盛り付け、器の工夫を行っている。	利用者と職員と一緒に調理したり、さりげなく介助するなど、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量、食事摂取量は支援経過記録を活用し把握を行っている。記録は24時間記入が出来る事で利用者の状況が把握しやすく、不足部分に応じてすぐに対応できるようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、チェック表に記入する事で口腔内の清潔に努めている。また義歯使用の方は毎晩洗浄を行い、使用した洗浄具も消毒を行い清潔な状態を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援経過記録に排泄状況(回数、排泄量)を記入し、個々の排泄パターンの把握、適切な対応(下剤や緩下剤の使用)が出来るように努めている。利用者に応じ可能な限りトイレでの排泄を行っている。	支援経過記録を利用し時間誘導を行っている。排せつパターン、尿意や便意の把握に取り組み、排せつの自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の把握を行い、まずは積極的な水分の提供、乳製品の摂取を行い自然排泄が行えるようにしている。一定期間排便の見られない方については主治医の処方の下内服薬や坐薬の使用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとり個別での入浴を実施し利用者のペースで入浴を行う事ができている。入浴前にはバイタルサイン測定を行い、また利用者の精神面の状態によっては入浴日を変更するなどの配慮をしている。	週3回の午前中の中の入浴となっているが希望に応じて対応している。入浴を拒む場合は、経過をみたり入浴日の変更を行ったりして対応している。季節に応じた入浴、足浴等を行い、入浴を楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じ休養時間や余暇時間を自由に過ごせるようにし休息を図っている。また安眠に繋げる為、適度に体を動かす活動を行い、適度な体調で休む事が出来るようにしている。内服薬使用は主治医に相談判断の下使用を行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診時に内服薬の確認を行い、変更があれば受診報告書や申し送りノートを活用し情報の共有を図っている。看護師による服薬の管理もあり安全に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別活動にて利用者に応じた趣味を楽しみを活かした支援を提供している。毎月取組状況を確認し、出来る事、困難な事を評価し、その方に適した活動になるよう変更を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には敷地内の畑や散歩に出掛けている。また毎週日曜日を買物の日とし、ドライブを兼ねて外出している。また家族合同行事の中にも定期的に外出機会を設けている。しかし体力的に実施出来ない状態の方もいる。	日常的に近隣の散歩や隣接する保育園までの散歩を行っている。年間計画で食事や花見に利用者全員で出かけている。堀切峠や青島にも出かけたりと家族の協力を得て外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、預かり金として施設が管理している。個人の物品購入時に使用し、行事等で外出機会があれば可能な限り利用者自身での支払いを行っている。毎月使用した金額は家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の取組として暑中見舞いや年賀状を利用者自身に書いてもらい発送している(記入が困難な方については職員が代筆している)利用者の希望により必要時には電話支援を行う。利用者宛の荷物は本人に渡すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体に壁画や作品を飾り、季節を感じて頂ける様にしている。特に集団での活動の場には時期の壁画を掲示している。生活する中で振り返り懐かしむ様子も見られている。	湿度や温度に配慮し、利用者が作成した壁画や作品を飾り、季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が思い思いの場所で過ごせるように、休養スペース、一人席やソファ、多目的に使用できるように数台のテーブルを設置している。利用者が安心して過ごせるように早期介入に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある物や写真をご家族と共に環境整備を行っている。また利用者の生活に必要な物も意向を尊重して設置している。普段は集団での生活を楽しむようにしているので居室で過ごす時間は減少している。	居室は家族と相談しながら、家族の写真や使い慣れたたんす、テレビ、冷蔵庫を持ち込み、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者にとって安心できる場の提供(トイレ表示や動線の確保等の環境の整備)に取り組んでいる。利用者一人ひとりの居室に写真名前入りの表札を設置し戸惑いがないよう工夫している。		